

販売革新部門

熊本県阿蘇市 有限会社内田農場
(代表取締役：内田 智也 氏)



○ 経営規模：55ha（水稻45ha、大豆10ha）、農作業受託30ha

(注) 数字は令和元年当時のもの

経営展開のポイント

- 先代が養豚から土地利用型に経営転換して数年を経た平成7年に法人化。平成26年に先代から経営継承し、米の大半を直接販売に切り替え。米の直接販売では一般消費者のほか、実業団の合宿及びJリーグアカデミーの食事用に提供。
- 主食用米のほか、酒米など加工用米に活路を見だし契約栽培に取り組む。
主食用米は5kg入りのほか、ギフト用のノベルティ用パッケージとして、酒米は、酒造メーカーと協力し日本酒を製造しており、自社名のパッケージを貼付した製品を多数ラインナップ。
また、大手牛丼チェーンの牛丼用のほかカレー、チャーハン用の米を大手卸業者と取引。
- 現在、稲作の収穫は8月下旬から11月中旬までと作業適期を分散することにより、まんべんなく雇用労働力を活用。また、作業時期の集中による過剰な農業機械の導入を回避し効率利用することでコストを削減。
- 稲わらをロールにしたものや籾殻を畜産農家に提供し堆肥の還元を受け、耕畜連携による循環型農業に取り組む。さらに、アウトドア系アパレル企業と連携し、作業着やブーツなどの商品開発に協力している。
- 農作業の省力化の実現のため、合筆した区画の拡大後、レーザーレベラーを使った圃場の高低差解消、地図情報を活用した圃場管理システム、GPSガイダンス付き自動操舵8条乗用田植機、防除用ドローンの導入などスマート農業を実践。